

第6学年 社会科の実践

- 1 単元名「私たちの暮らしと政治」
小単元 みんなの願いと政治の働き
- 2 単元目標

わが国の政治の働きに興味・関心をもち、調査活動を取り入れたり、資料を活用したりして調べ、国民主権と関連づけて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切なものであることや、現在の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。

- 3 「ひびきあう 三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題…子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」

・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴く」ことについては、静かに友だちの話を聞いている子が多い。一方で相手の伝えたいことは何かを考えながら「聴く」ことには課題があった。そこで、どうしたら「温かい聴き方」になるのかを、学習の中で子どもたちとともに考えてきた。「反応があると話しやすい。」「相手の意見を大切にするとよい。」ということ意識し、少しずつではあるが、友達の意見に対してうなづく子や「なるほどね。」と反応をする子、「ここまでは分かったから、その後を話してくれる？」と相手の話したいことを理解しようとして聴くことのできる子が増えてきた。発言が増えると友達の意見に対して自分の考えとは違うと感じたり、「それってどういうこと？」という思いが生まれたりしてくる。そうした思いが否定的に出てしまう児童もいるので、批判的なものの見方は認めつつもその伝え方を指導しているところである。

「話す」については、全体的に見ると「伝える」ことにそれぞれが課題をもっている。挙手しなくてもつぶやくことで学習に参加する子や、友達の話している内容をよく聴いていて表情が変わったりする子には、意図的に指名し、そうした子の思いがクラス全体に広がるようにしている。中には分かっているも「自分さえ分かればいい。」と考えて発言せずにいた子もいたが、友達が分かってくれることのよさを感じはじめると、自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとする意思が強くなってきた。ただ答えを早口で述べていた子が「ここまでは分かる？」と聞いたり、「だから…。」と言って黒板に書いて話したりする姿に成長を感じている。相手意識を持って話す姿をクラス全体が温かく聴き、みんなで話し合うのだという雰囲気を大切にしていきたい。

<これまでの関わり合い・ひびきあい>

答えがはっきりしているものや絶対に合っているだろうというものに対しても4月当初は挙手がほとんどない状態であった。しかし、学習の始まりが「楽しそう。やってみよう。」「自分にもできそう。分かった。」と思えるものであればあるほど活動や発言が活発になり、子どもたちの学習への取り組みは大きく違ってきた。学習の導入は特に興味関心を引くようなものになるような工夫が必要である。学習活動が活発になればなるほど、他の友達の意見も取り入れようとする姿も増えてきている。算数の「円の面積」の学習では、円の面積の求め方を班の友達と一緒にいくつも考えることができた。普段挙手して発言しない子も、少人数グループの中では「だからさ…。」と言って図を描いたり、「分からないところはどこ？」と尋ねたりしながらみんなで分かろうとする姿があった。みんなで一つの問題を解決するために、友達の考えを言い換えたり、繋いだりしながら学習できる子が増えたことは大きな成長である。一斉学習に加え、ペアやグループなどの少数での学習形態も取り入れているところである。

- 4 単元と指導について

<単元について>

本単元は、学習指導要領の内容(1)「我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」を受けて設定している。本単元の学習では地方公共団体と国の政治が国民生活と結びついていることを実感できるようにすることを大切にしたい。政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることに気づく中で、子どもたちが政治に関しての考えを深めることにつながることを考える。

子どもたちが「生活をよりよくしたい。」と願う姿を大切にしたい。それが政治とつながっていくことを実感できるようにしたいと考えた。子どもたちにとって遠くに感じてしまう「政治」が実は自分たちの生活と密接につながっているのだということを、市役所で働く人や議員の方

の話やその働きを調べることで、市民や国民の願いをかなえるための政治の働きに目を向けていくようにする。

さらにそのつながりの一部として租税の役割について学習する。消費税などは税金の中でも子どもたちの身近なものとしてあげられるが、それが身の回りのさまざまなものに使われていることを調べ学習等から知り、税金の大切さに気づくだろう。さらに自治体や国によって税金の使い道はさまざまであり、それを国会や市議会等で国会議員・市議会議員が話し合っていて決めていることを理解する。みんなの選んだ「議員」が莫大な税金の使い道を決めたり、大切なことを決めたりしていることを知ることで、選挙の大切さに気づいていくだろう。国会や市議会などの議会政治や選挙の意味、国会・内閣・裁判所のそれぞれの働きと三権相互の関連について学習する中で、国民の政治参加の大切さについて考えていけるようにしたい。

前半の政治の仕組みについて学んだことを生かして、後半では自分たちの政治参加について考え議論する活動を取り入れることで、子どもたちの公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や資料をもとに自分の考えをしっかりとつことで政治への関心を高めていけるようにしたい。

<指導について>

6年生になると地域での出来事に関心をもち、地域の行事のことや新しい公共施設ができることが話題に上がるなど、地域における生活経験がより豊かになってきている。また、子どもたちなりに「生活をよりよくしたい。」という思いも確実にもっている。しかし、その思いを達成するためには「国」や「市」等の壮大な、また漠然としたものにぶつかり、政治を遠く感じてしまうことが問題である。小学6年生の子どもたちが、政治との関わりを意識して生活しているとは言えない現状がある。多くの子が総理大臣の名前や、選挙自体を知ってはいても、テレビや新聞などのメディアで目にしているだけである。それらの人々がどんなことをしているのか、なぜ選挙が行われるのかについて興味をもっている子は少ない。身近な消費税の話題についても、10%への引き上げのことをニュースで見て知っているが、その「税金」が何に使われるのかということやその仕組みについて詳しく知っている子はほとんどいない。子どもたちにとって『政治』は「難しく」「大人のすること」であり、「今の自分たちには関係のないこと」と捉えていると考えられる。

そこで本単元の導入では「三の丸小学校にもエアコンをつけてほしい。」という子どもたちの身近な願いを取り上げることにした。今年度大きな問題となった、公立小中学校のエアコン設置率であるが、神奈川県全体で見るとその率は80%と決して低くない。しかしメディアでも大きく取り上げられているように地域間格差は大きく、小田原市はその80%に含まれていない。「誰に言ったらこの状況をかえてもらえるのか？」を考えていくことが子どもたちの共通の問題となっていくと考える。自分たちの思いを実現するために小田原「市」に着目し、「市役所」「市長」「市議会(市議会議員)」の仕事を詳しく調べていく。実際にその場所で働く人に出会うことで漠然とした「市」の仕事が少しでも子どもたちにとって身近なものとして感じられるようにしたい。そしてどの仕事もそれぞれの立場で市民の願いを叶えるために働いている、ということを実感するとともに、「市」の仕事が様々な人の願いや意見を調整して「みんなの願い」が実現するように働いているということにも気づいていけるようにしたい。

自分たちの願いや思いを実現するためには、と考えると市の働きに加え国の働きを学習していくと、自分たちの思いを実現するための一つには必ず「選挙」があることに気づいていく。税金によって集まった大きなお金の使い道を決める場が市議会であり、国会である。その市民や国民の代表である「議員」を自分たちで決めるという「投票」活動に価値を感じられるようにしたい。「自分たちの願いを実現してくれる、ちゃんとした議員さんを選ぶためには。」と考える子どもたちは自分が選挙に関わっていくことに関心をもつはずである。

平成28年から、これまで20歳だった選挙権が18歳に引き下げられた。子どもたちにとっては6年後、まだ先のことと感じてしまうと考えられる。しかし、これまでの学んできたことから、子どもたちは「選挙でみんなの意見をしっかりと聞いてくれる人をきちんと選ぶ」という投票行動に価値を感じているはずである。そこで現在の投票率の低さや投票しても白票等があることを知る。きちんと投票している人の少なさに子どもたちは驚き、「なんでみんなは投票に行かないのだろう。」という疑問をもつはずである。様々な理由を知る中で、本時の「投票率を上げるためにはどうしたらいいのか？」という問題に繋がっていくと考える。本時では「行けない人が投票に行けるようにするためには。」「行く気のない人に投票してもらうには。」と自分なりの解決方法を考えて友達と伝え合えるようにしたい。様々な方法を話し合う中で、投票率をただ上げるのではなく、選挙の大切さをみんなが感じて投票できるようにするにはと考え、「選挙に参加すること」についての関心を高める姿をひびきあいの姿としたい。

5 単元構想 6年社会 「みんなの願いと政治の働き」 全10時間 本時10時間目

単元目標

わが国の政治の働きに興味・関心を持ち、調査活動を取り入れたり、資料を活用したりして調べ、国民主権と関連づけて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切なものであることや、現在の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。

もっとこんな風だったらいいのにな。

- ・遊べる施設がほしい
- ・ゴミ箱がほしい
- ・子どもにも権利がほしい
- ・消費税減税
- ・パソコンを最新に
- ・エアコンをつけてほしい！

小学校・中学校にもエアコンがほしい！！

誰に言えばエアコンをつけてもらえるのかな？①

先生にお願いしたけど無理だった。

校長先生にお願いしようよ。

神奈川県でエアコンがついてない所って20%なんだ・・・

小田原市の人に言えばいいんじゃない？

妻にお金がかかるよ。・・・電気代もかかるし。 エライ人、市長さんとか？市役所の人ってこと？

全部で22億円くらいかかるんだって・・・

小田原「市の人」って誰だろう？②③

市長のはたらき	市議会のはたらき	市役所のはたらき
・市の代表者。 ・市民の要望を市の政策として具体的に予算にあげたり、条例をつくるために議会に議案を提出したりする。 ⇒これが市民のためになるかどうかを話し合いで決定する場所が<u>市議会</u>	・市のきまりを決める。 ・お金をどのように使うか決める。 ・お金が正しく使われているか、仕事が正しく行われているか調べる。意見を言う。 ・多くの市民が一箇所に集まるのは難しいので、<u>市民の代表者を選んで市民に代わって大切な仕事をしてもらう⇒市議会議員</u>	・市民のために仕事をするところ。(環境、安全、福祉、教育等の仕事内容で分けられている)。 ・市民の意見を調整しながら市民の願いを実現するための計画を立てる。 ・市議会の決定を受けて、市役所が計画を実行する。

他の市ではこうなっているんだね。小田原市でもこんな風に仕事をしているのかな？

◎市役所・市議会議員の方の話より・・・

・みんな市民の願いをかなえるために働いているんだ。

・市役所ではすごくたくさんの「課」があってたくさんの人が働いていたね。

総合学習でお世話になっている人も小田原市農政課の人だったよね。

・今年は**682億円**も小田原市のお金になっているんだって！この予算も議員さんが決めているんだ。

・「エアコンをつけよう。」とか、ぼくたちの意見をちゃんと聞いて、**たくさんのお金**をきちんと使ってくれる議員さんを選ばないと。市役所は「税金」を使って行政サービスを行っているんだね。

こんなにたくさんのお金ってどこから来るの？

税金って？④

なんで払うの？ どんな種類があるの？ どんなことに使われているの？

税金でしょ！消費税があるじゃん。

それだけじゃないよ！他にもあったと思う！

消費税以外にもたくさんの「税」があるよ。

- ・消費税・・・買い物をした人(国税、地方税)
- ・所得税・・・会社に勤めたり、自分で商売をしている人(国税)
- ・住民税・・・⇒同じ(地方税)
- ・法人税・・・会社(国税)
- ・国定資産税・・・土地や建物(地方税)

税金があることで**たくさんのお金**を受けているんだ。

- ・お医者さん
- ・救急車
- ・警察
- ・自衛隊(災害派遣)
- ・図書館
- ・学校
- ・教科書
- ・ごみの回収
- ・道路の工事
- ・年金
- ・市民会館
- ・UMECO
- ・小田原市特有の施設もあるね。

税金のおかげで暮らしを豊かにしているんだ。嫌だなんて思ってたけど税金って大切なんだね。

地方税と国税があるよ。

地方税はそれぞれの都道府県や市町村に分けられるんだ。 国税もあるけど、国に納めた税金はどうなるのかな？

税金はみんなが暮らすためにすごく大切なことはわかった。でも上がっちゃうのは困る。嫌だ。

10%に上がると国が豊かになるのかな？ちゃんと使い道を決めてくれないから無理だよ。

だれが税金の使い道って決めてるの？ 総理大臣じゃない。財務省とか。 国が決めたんだよ。

国はわたしたちのためにどんなことをしてくれているの？⑤⑥

税金の使い道って誰がどうやって決めてる

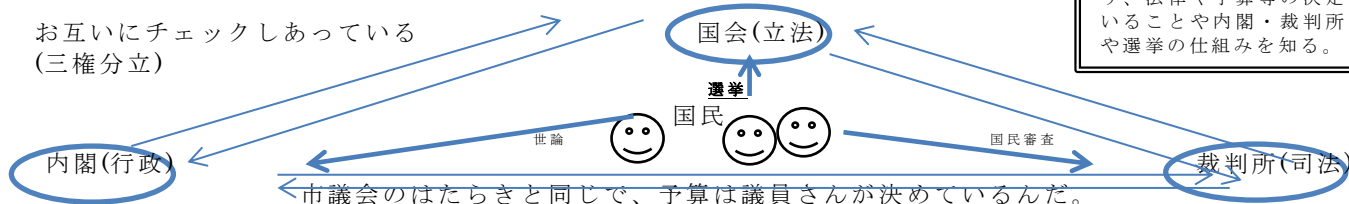
国会議事堂に12月に行くよね！話し合ってるところもよく見るよ。国会って市議会の国バージョンでしょ。

最近安部首相が「内閣改造」したって言ってたよ。国会と内閣って違うの？。

この間は市議会議員さんに聞いたから、今度は国会議員さんに聞いてみようよ！

国会が衆議院と参議院から成り、法律や予算等の決定をしていることや内閣・裁判所の働きや選挙の仕組みを知る。

お互いにチェックしあっている
(三権分立)



市議会のはたらきと同じで、予算は議員さんが決めているんだ。

議員さんって「国民の代表」なんだって！

こんなに大きなお金、いい使い方をしないともったいない！国民の希望通りに使ってくれる議員さんを選ぶんだ。

だから国民の願いをかなえてくれるちゃんとした国会議員さんを選ばないといけない。
ちゃんと選ばなきゃ。18歳ってまだまだ先じゃん！ 6年なんてすぐだよ。ちゃんと選べるか心配。

ちゃんとした議員さんを見極めるには？⑦⑧

「ちゃんとした」というのは・・・わたしたちの意見を反映してくれる議員さんってことだよな！

どうやったら「ちゃんとしてるか」って分かるのかな？

見た目！ 見た目だけで判断しちゃだめでしょ！ よく選挙の時期に写真が張り出されるよね。
写真の近くに議員さんの「ひとこと」みたいな言葉が書いてあるときもある。パンフレットもある。

よく駅前で街頭演説しているよね。あと車(選挙カー)が家の近くを通ってるよ！

マニフェストっていうのを聞いたことがあるよ。 ネットにもものっているんじゃない？

ちゃんとした
議員さんを選ぶには？

公示から投票まで・・・顔写真(見た目)
政見放送
街頭演説
パンフレット
ホームページ
電話

それぞれの議員さんの
マニフェストを知る。

わたしたちの意見を
きちんと聞いてくれそうな人は
どの人かな？
お金をちゃんと使ってくれる
人はどの人かな？

ぼくたちも考えれば選べるよ！投票してみたい！ 子どもの話をちゃんと聞いてくれる人を選びたい！

~~18歳じゃなくても、わたしたちでも投票できるんじゃないの？~~

~~でも選挙に行ける年齢って、最近20歳だったのが18歳に下がったばかりだよ。無理でしょ。~~

投票するって難しいね。 政策をよく読んで、どの人だったらみんなの願いをかなえてくれるか考えたよ。

本番だったらもっと緊張しそう！ 今回は全員投票だったけど、本当はどうなのかな

2014年衆院選の投票率より・・・

投票したのは有権者の52.6%だって！少なっ！ クラスだったら半分しか行ってないってことだよ。

しかも20代の人はもっと低い・・・ 全然行ってないじゃん。こんなんでもいいの？

みんなの願いをかなえるために選挙って大事なのに、なんで行かないのかなあ。

なんで投票に行かないの？⑨

仕事とか勉強で忙しいんじゃない？ なんか大事な用があったとか・・・期日前投票があるらしいよ。

いい人(議員さん)がいなかったんじゃない？ 選挙にそもそも関心がないんだよ。

どうせ自分だけ投票しても変わらないって思ってるんじゃない？

- ・仕事があったから。 ・用事があったから。 ・体調がすぐれなかったから。 ・投票所が遠かったから。
- ・選挙にあまり関心がなかったから。 ・解散の理由に納得がいかなかったから。
- ・政党の政策や候補者の人物像など違いがよく分からなかったから。
- ・適当な候補者がいなかったから。 ・私一人が投票してもしなくても同じだから。 等々・・・

いろんな理由があるんだね。 じゃあ行かなくていいのかな。

でもさ、これで大切なことが決まっていくんだよ？ 投票しないと変な人がなっちゃうかもしれないじゃん

関心が無いとか、天候が悪いからってどういうこと？！ ひどくない？

僕たちだって難しかったけどできたんだから・・・ どうしたらこの人たちが投票に行くようになるかなあ。

投票率を上げるためにはどうしたらいいの？⑩ 本時

行けない人に・・・

- ・ネットで投票できるようにする。
- ・選挙の日を休みにする。
- ・朝早くとか夜遅くでも投票できるようにする。
- ・身近なところでできるようにする。
- コンビニ 駅 高校・大学 仕事場等々・・・
- できたら、みんな投票するんじゃないかな。
- ・車で送り迎えをしてくれる。

行かない人に・・・

- △ 罰金を取る。
- △ 来た人に何かをあげる。
ポイントをあげる、商品券をあげる
お金をあげる
- ただ来ただけじゃ意味が無いと思う。
投票率を上げるんじゃなくて、「ちゃんとした人」に
投票しないと意味が無いと思う。
- ・選挙の大切さを教える。
学校で授業をする。
ネットで知らせる。
- ・もっと議員さんが政策をわかりやすく伝える。
理解していない人とか、理解できない人でもわかる
ように言う。

6. 本時について

(1) 本時目標 「投票率を上げるためにはどうしたらいいのか」という学習問題について、自分なりの解決方法を考えて友達と伝え合う中で、「選挙に参加すること」についての関心を高める。【関心・意欲・態度】

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
どうやったら投票率は上がるかな？ ・ ネットで投票できるようにする。 ・ 選挙の日を休みにする。 ・ 行けない人の家に行って投票してもらう。 ・ 身近なところでできるようにする。 コンビニやお店、仕事場、病院等々・・・で投票できるようにする。 ・ 郵送で送れるといい。 ・ 車で送り迎えをしてくれる。 ・ 期日前投票を増やす。 ・ 選挙の日を延ばす。 ・ 新聞などで知らせる。 ・ 回覧板で知らせる。 →みんな投票日を知らないわけではない。 →そもそも興味が無い。 ・ マスコミの事前予測をなくす。 →行く気がなくなっちゃうから意味が無い。それよりも<u>政党の説明</u>をしたらいい。 ・ 政治をもっと<u>わかりやすく</u>すればいい。 ・ <u>選挙の大切さ</u>を知ってもらう。 ・ 自分に<u>ものすごく関係ある</u>と分かってもらう。 ・ 選挙した人には特典をつけてあげる。 免税してあげる。何かをあげる。 →罰と一緒に考えて投票しなくてもいい。 ・ 選挙権ではなくて 選挙義務にする。規則にしちゃう。 罰を与える。罰金、刑務所？ →<u>考えて投票しなくてもいい</u>ってこと？ 提示したグラフ 約52.6%の 人しか投票して いない	・ 本時の学習問題を確認する。 ・ 自分の考えを理由も添えて話している児童を認めていく。 ・ 同じ話題からつなげていくことで、同じ話題でも様々な方法があることに気づけるようにする。 ・ 友だちの考えでよくわからないところがあれば、質問をしたり、お互いに教えあったりする。 ・ 選挙義務にする、や投票者に何かをあげるといった「投票率を上げる」ことだけに重点を置いている子の意見で立ち止まる。場合によっては前時までの「きちんと考えて投票する。」という子どもたちの思いに立ち戻るようにする。 ・ 意見交流の後の学習感想では、具体的に自分の思ったことを書けるように伝える。 ◆「投票率を上げるためにはどうしたらいいのか」という学習問題について、自分なりの解決方法を考えて友達と伝え合う中で、「選挙に参加すること」についての関心を高められたか。【関心・意欲・態度】

7 実践を終えて

(1)子どもとどのように単元を作ってきたか(本時まで)

本学級の子どもたちの中には、「もっとこんな風になれば、生活がよくなるのに。」と、自分たちの生活をよりよくしたいという思いがあった。その中の一つが本単元の導入にある「小学校や中学校にもエアコンをつけてほしい。」という願いである。政治は国民の一人ひとりの生活が豊かになるために行われるものである。政治は自分だけではなくみんなのために行われるというところまで気づいてほしいが、今の子どもたちの現状から考えると、まだまだ「誰かのために。」という思いまで至らない。そこで、まずは「自分たちの生活をよりよくするために。」と考える姿から学習が始まっていくようにしたいと考えた。

子どもたちに小学校のエアコン設置率を提示し、神奈川県のエアコン設置率80パーセントの中に小田原市は含まれていないことを知った。この状況を変えてほしいという共通の思いから、「小田原市」の仕事を詳しく調べていくきっかけとなった。実際に小田原市役所へ行き、市役所の仕事や市長の仕事、市議会(市議会議員)の仕事を教えてもらった。働く人に会い、話を聞くことで、市役所の中にも様々な立場で「市民のために」と働く姿に触れることができた。自分たちの願いはもちろんのこと、様々な立場の人々がいて「みんなの願い」が実現するように働いているということに気づいていった。

特に市議会議員や市長がどのように選出されるのかについて知ることで、選挙活動にも興味をもつようになった。税金によって集まった大きなお金の使い道を決める場が市議会であり、国会である。学習を深めていく中で、選挙について、「ちゃんとした(みんなの願いを実現してくれる・税金の使い道をきちんと考えてくれる)人に議員さんになってもらいたい。」という思いを強くした。

(2)本時での様子、今後の課題について

<成果>

本時の「投票率を上げるためにはどうしたらいいのか。」という学習問題は、本学級の子どもたちにとってみんなで解決したい、考えたい問題になっていた。実際に市議会議員さんに出会い、仕事の内容を教えていただいたこと、莫大な税金の使い道を議員の方々が市議会や国会で話し合っているのだということを学んできた。その中で生まれた「ぼくたちも投票してみたい!」という思いを大切に、模擬選挙も行った。模擬選挙前に、子どもたちは「ちゃんとした人を議員さんに選びたい。」という思いをもつようになった。そのため、投票前には自然と「見た目も知りたいけど、その人がどんなことを考えているのか(政策)とか、プロフィールとかも知りたい。」という声が聞こえ、「ちゃんと選びたい。」という気持ちが強くなっていたことがうかがえた。

本時の「投票率を上げるためには」という話し合いの中で、投票率を上げるために規則や法律を作ったらどうか、という「投票義務」についての意見が出た。そこで他国の投票率を資料として提示し、投票率の高い国の中には投票を義務にしていることも伝えた。前時の子どもたちの考えの中には投票を義務とすることに賛成するような意見がいくつかあったが、この資料提示を受けて、「白紙で出すという人がいるかもしれない。」「ちゃんと投票してもらわないと意味がない。」という話し合いの柱が固まっていくきっかけとすることができた。

本時の学習を通しての振り返りでは、発言していない子もノートに自分の考えをまとめて深める姿があった。また、発言している子も授業の中で友達の様々な意見を受けて自分の考えを問い直す姿があり、ひびき合いながら個々に学びを深める姿が見られた。

<課題>

板書の工夫が課題である。次の学習へ繋がっていくように、子どもたちの意見をまとめたり、問いを繋げたりしていく必要があった。投票率を上げるための意見がたくさん出た時に、子どもたちの意見をただ羅列して板書してしまった。意見ごとに見出しをつけたり、カテゴリーごとに分けたりしていくと、板書を見ただけで自分の考えがどの意見と似ているのかということや、これまでにどんな意見が出たのかがより分かりやすくなったと考える。構造的な板書をするためにも、子どもたちの意見を整理して聞き取り、どの意見と繋がっているのか、または繋げて考えてほしいのかを考えながら板書していくようにしたい。

そして次へと繋がる板書とするためには、本時最後のまとめとなる部分を子どもの言葉で行えるとよかった。大切にしてほしいところを教師の言葉で伝えてしまったが、子どもたちの中には「選挙の大切さをみんなに知ってほしい。」という思いをもっている子が何人もいた。授業の中で友達の様々な意見を自分なりに受け止めていたのだと思う。本時の学習問題であった「投票率を上げる」ということよりも、「選挙」の大切さに気づいた子の思いを意図的に指名して広めていけるとよかった。

教師の出所としては子どもたちの意見が繋がっていくように意図的指名をしたり、問い返したりといったことを意識した。しかし、話し合いの最後に一人ひとりが振り返りをする際には、「学習感想」という形で書くように伝えてしまった。振り返りをする際には、「何を書くのか。」ということをはっきりさせる必要があった。学習感想なのか、本時の学習問題について振り返るのか、書く視点を提示することで単元のねらいへと子どもたちの気持ちが繋がっていくと感じた。

本単元の学習は子どもたちの身近な問題から学習がスタートしたことで、一人ひとりがよく考えて、一生懸命学ぼうとする姿が見られた。そうした姿が単元を通してひびき合っていくように、個々を見とり、それを支える教師の言葉かけ、板書の工夫などを普段の授業から意識していくようにしたい。